

## 李登輝先生のお話と悲劇の神社

李登輝学校日本校友会理事長

天目石要一郎



慰霊祭に先立って開かれた  
李登輝学校日本校友会総会

### 理事長として代表参拝

昨年の年の瀬、十二月五日に靖国神社にて、六回目となる「台湾出身戦歿者慰霊祭」が行われました。参列者は台湾出身者で実際に従軍された方、台湾人の方、また多くの日本人を含め、約五十名での昇殿参拝となりました。

今回は、慰霊祭の前に開催した李登輝学校日本校友会総会において理事長を拝命したため、私は代表者として参拝、玉串を奉げさせていただきました。

日本李登輝友の会の袖原正敬事務局長のお話では、つい十年ほど前まで台湾出身戦歿者が靖国神社に祀られていることは、台湾は言わずもがな、日本ですら知られていなかったのだそうで

す。日本李登輝友の会の呼びかけで、平成十七年（二〇〇五年）から台湾出身戦歿者慰霊祭を行うようになったことに加えて、四年前の平成十九年（二〇〇七年）に李登輝元総統が参拝されて以来、台湾でも広く知られるようになり、今では多くの台湾の方が参拝されるようになっていきます。

靖国神社で昇殿参拝された方はご存じと思いますが、本殿には鏡が一枚あるだけです。私は、鏡を通して、日本のために命を捧げた先人に想いをはせながら、以前、台湾李登輝学校研修団で李登輝先生のおっしゃっていた話を思い出していました。

「戦争中、自分は二十歳まで生きることはないだろうと思っていた。そこ

で、いったい生とは何か、死とは何かと徹底的に突き詰めて考えてみた。西田哲学や鈴木大拙などを限られた時間の中で必死に学んだ」

靖国神社に眠る英霊も、李登輝先生と同じように、精神的な葛藤や複雑な思いを持って出征されていったのでありましょう。靖国神社というと、A級戦犯合祀の是非、首相参拝の是非などばかりが取り上げられる傾向が強いのですが、そこに、靖国神社に眠る方々への思いが全く欠如しているのは悲しいことです。

また、李登輝先生は「私であつて私でない私」や「実践哲学なんだよ」というお話をされます。私は「私心を捨てて社会のために、まず自ら行動しなさい」という意味であろうと解釈しています。私自身も日々の生活の中で心がけてはいますが、言うは易く行なうは難しで、反省することばかりです。

そして、李登輝先生は「私は聖書に行き着きました」ともおっしゃって

ます。「聖書に行き着く」とはいった  
いどういうことなのでしょう。しば  
らく、どういうことを意味するのか分  
からなかったのですが、私なりに理解  
するのは、「救し」ということでない  
かと思えます。社会にはいろいろな不  
条理があり、葛藤もあり怒りもある。  
それでも赦すということでないかと思  
います。赦し、癒すということが李登  
輝先生の言う「聖書に行き着く」とい  
うことなのではないだろうか。

## 「実践哲学」で取り組みたい

靖国神社は、若くして国のために命  
を捧げた方たちをお祀りする悲劇の神



目黒天宮に参拝する天目  
石新理事長（平成22年12月5日、靖国神  
社参集殿）

社です。夢や希望を絶たれ、命を中途  
で失った悲しみや苦しみ、嘆きで、本  
来なら非常に沈鬱で重苦しい場所であ  
るはずですが。しかし、行ってみると凜  
とした清々しさを感ずるでも、沈鬱さは  
感じません。不条理や悲しみ、苦しみ  
といった葛藤を「救し」そして「癒  
し」へと昇華しているがゆえに、凜と  
した清々しさを感ずる、過度に押し  
付けがましかつたり、説教臭くなく、  
自然に世界平和を祈る場所となってい  
るのではないのでしょうか。世界各地に  
戦争や戦災の悲劇を伝える史跡や墓地  
がありますが、靖国神社に流れる空気  
は、そのような場所と違って、自然に  
感じます。そのようなこともあり、  
私は李登輝先生のおっしゃる話が靖国  
神社では胸にストンと落ちるのです。  
台湾出身戦歿者の方たちは、李登輝  
先生と同世代の方々です。李登輝先生  
が私たちに語りかけて下さる言葉は、  
時空を超えて靖国神社に眠る多くの英  
霊が語りかけている言葉のようです。

李登輝先生に学びながら、日本と台  
湾の友好、日本を始め東アジアの平和  
や人権問題に対して、「実践哲学」で  
取り組んでゆかなくては台湾出身戦  
没者慰霊祭に参加させていただき、改  
めて考えました。

このたび、中学校の先輩でもある片  
木裕一前理事長より、李登輝学校日本  
校友会の理事長をやるようにとご指名  
をいただきました。何分、浅学非才で  
はありますので、諸先輩の皆様から学  
ばせていただき、一年半という任期を  
終えた時には、及第点をいただけるよ  
うに頑張つてゆきたいと思えます。よ  
ろしくお願いたします。

なお、昨年末、念願だった靖国神社  
における台湾出身戦歿者のための「永  
代神楽祭」が十一月二十三日に斎行さ  
れることが決まりました。これは靖国  
神社が存続する限り、毎年執り行われ  
ます。来年の台湾出身戦歿者慰霊祭も  
この日に合わせて行いますので、皆様  
のご参列をお待ちしております。